日本生命財団助成事業

「楽しい老い」とは？　「穏やかな終末」とは？
「理想的な地域医療」を描いた、笑いと涙があふれる あったか〜い映画です！

群馬県の在宅医師・萬田緑平先生の診療所は、いつも笑い声が絶えません。
ジョークが好きな萬田先生の信条は、患者さん本人の気持ちを最優先する「患者ファースト」。
家族旅行を楽しんだり、愛するペットとともに暮らす。趣味のガーデニング、ゴルフ、お酒を満喫する。
本作で描かれるのは、最期まで自分らしく生きる、その輝き。前向きに歩きはじめる家族の姿です。
中学生、高校生など若い方にも、ぜひ観てほしい「生きる希望」を描いた文科省選定映画です。
がんを抱えながら亡くなった樹木希林さんの言葉が、明るく生き続ける極意を教えてくれます。
監督は、『夢みる小学校』のオオタヴィン。ナレーションは、佐藤浩市と室井滋。エンディングテーマはウルフルズの名曲です！
“希望あふれる地域医療”を描いたハートフル・ドキュメンタリー映画です♪

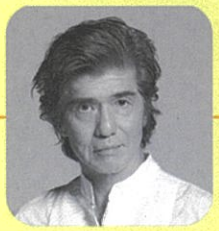
「在宅緩和ケア」で、
自宅で自分らしい生活を送る
がん患者のみなさん

ゴルフやお酒も
OKです！

孫や子どもと
我が家で過ごしたい！

愛するペットと
一緒にいたい！

ハッピー☆エンドは、こんな映画です！



本作ナレーター
佐藤 浩市

緩和ケアを受けることで、がんの患者さんたちが
お酒を飲んだり、ゴルフをしながら自分の人生を満喫できる、
素晴らしいなと思いましたね。
がんで悩む現代人には勇気が出る映画です。

本作ナレーター
室井 滋

緩和ケアの実態、私もこの映画で初めて知りました。
がんになっても痛くないなんてすごいですよね。
患者さんたちの元気な笑顔にびっくりしました。
見ると不思議な希望が湧いてくる映画です。

観客は大声で笑う、自分や自分の家族と重ねて笑う、うなずきながら泣く。
画面に映るのは私、私の夫、私の妻、私の子ども、私の孫たちなんだ。
緩和ケアは生ききる人の生きるを支え抜くケアだと伝わる。
この映画を観た人は「しっかり生きよう」と元気になるのだ。
高口 光子（理学療法士、介護福祉士）

予告編
ご覧ください

「一人ひとりの命を、暮らしの中で最期まで」

ホームホスピス われもこう

ホームホスピスわれもこうは、どんなに要介護の状態であっても、
地域の中でその人らしく最期まで、家族とともにその人の生活を
支えています。

暮らしの保健室まる
熊本市中央区水前寺5丁目17-18-1F
☎096-273-8585
（月・水・金 10:00-15:00）
✉info@waremokou.org

申込QRコード

お申込はこちらから

*主催：NPO法人老いと病いの文化研究所われもこう
*後援：熊本市